

八 役 第 1 0 6 7 号
平成20年10月15日

国土交通省道路局長 殿

八百津町長 赤塚新吾



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岐阜県加茂郡八百津町

道路の整備は、公共交通機関が乏しく、車への依存度が高い当町にとって、住民の日常生活、経済活動、広域的な交流を支えるために必要不可欠であります。

特に少子高齢化の著しい当町にとって、老人世帯へヘルパー車さえも行けない所があり生活道路の整備が急務となっております。

地形的に急峻な山間地域において、道路構造令の順守は、逆に工事費の増につながり、弾力的な運用をはかられたい。また、費用対効果のみで判断されると地方の道路整備率が現在でも低い中、さらに都市部との格差につながると危惧しております。

②-1 地域の現状と抱える課題

岐阜県加茂郡八百津町

○現状と課題

本町の道路網は、木曽川を挟み並行して走る国道418号、県道野上・古井線、県道多治見・八百津線を東西軸として、中心部から北部へ走る主要地方道多治見・白川線により南北軸が形成されています。これらを中心とした国道2路線、主要地方道1路線、県道9路線により町の道路網の骨格が形成されています。

さらに、そこから延びる町道が1,006路線（1級8路線、2級22路線、その他976路線）382.68kmに及んでいます。

これまで、国、県と連携して道路網の整備を進めており、今後は、新丸山ダム建設に伴う国道418号の整備により西部地域と東部地域を結ぶ東西軸が強化されるとともに、東海環状自動車道の開通に伴い、近接の各インターチェンジまでのアクセス道路の整備が進められており、完成後の町内外の交通アクセスの向上が見込まれます。

しかし、新丸山ダム建設に伴う交通量の増加や車両の大型化、そして高齢化が進む中で、より一層安全で便利な道路網・道路環境の整備が求められています。

また、広域交流基盤の強化のため、南北方向の道路網の充実、中心市街地の拠点機能の強化を見据えた道路網の整備が課題となっているほか、環境・景観面に配慮した道づくりが課題となっています。

(1) 総合的な道路整備の推進

東海環状自動車道（東ルート）の開通により、中濃・東濃地域が大きく変化している中、高速交通網へのアクセス向上による地域基盤の強化・発展に向け、町全体の道路ネットワークを考えた道路整備を推進します。

(2) 国・県道の整備促進

①主要地方道多治見・白川線の整備促進

高速交通網へのアクセス道路である主要地方道多治見・白川線の整備促進

②その他国・県道の整備促進

国道418号をはじめとする町内の国・県道の整備促進

(3) 町道の整備

国・県道との連携や機能分担、町内地域間の連携強化等に配慮しながら、町道の整備を計画的・効率的に進めます。

(4) 安心で安全な道づくりの推進

①人にやさしく安全な道づくり

道路整備にあたっては、バリアフリー化、環境・景観に配慮した人にやさしく安全な道づくりを進めます。

②道路安全施設の整備

少子高齢化に配慮した、交差点改良、自歩道の設置、防護柵の設置など道路安全施設の整備を計画的、効率的に推進します。

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

岐阜県加茂郡八百津町

平成18年7月に町内に居住する20歳以上住民から無作為選出した1000人を対象に「まちづくりアンケート調査」を実施し、その中で重点的に取り組む施策をたずねたところ、「高齢者施策の充実」43.6%が他を大きく引きはなして代1位に挙げられており、次いで「道路、交通網の整備」32.7%「交通安全、防犯体制の充実」26.0%の順となっております。

これを受け国道418号の整備、東海環状自動車道へのアクセス道としての（主）多治見・白川線の整備を軸として、これらの幹線道路との連携や機能分担、町内地域の連携強化等に留意しながら、町道の整備を計画的、効率的に進める予定であります。

また、これら道路整備にあたっては、災害時の対応をはじめ安全性の確保、バリアフリー化、環境、景観面に配慮した道路づくりに努めてまいります。